

大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

# 大阪 OSAKA あそび歩 ASOBO

## 千間川ノスタルジック散歩 ～緑橋の古民家や町屋を眺めながら～

緑橋界隈には、かつて千間川という川が東西に流れ、平野川に注いでいました。緑橋も千間川に架けられた橋の1つです。その千間川跡や、平野川沿い、第2寝屋川など、水との関わりが非常に深い土地や水辺を辿ります。路地や長屋、地蔵、銭湯といった下町の風景も見所です。

### 1 町家再生複合施設 燈-あかり-

2008年9月にオープンした町家再生複合施設です。「古いものを活かして今も昔も時代を超えて人をつなぐ場所として活用したい」というオーナーの思いにより、空き家となっていた大正初期に建てられた木造の町屋を改装したものです。内装も欄間や障子の建具、ガラスなどに大正ロマンが息づいています。飲食店や帽子専門店などが入居しており、毎年秋には「緑橋文化祭」と称してアート作品や地域の人々の文化発信を行っています。

### 2 千間川跡と緑橋の碑

千間川は明治初年、農業用水と農作物などを舟で運ぶ水利のために開削された人工の川で、平野川より河内高井田までを結びました。名前の由来は川幅が約10メートル、延長が千間(約1.5キロメートル)あったことによります。20あまりの橋が架かり、緑橋もその1つでした。しかし周辺地区の都市化とともに水田が消滅、灌漑用水路としての使命を終え、川の汚濁も著しく進んだことから水運としても利用されなくなり、昭和42年(1967)から順次埋め立てられました。跡地は緑陰道路として整備され、公園も設けられています。

### 3 南中浜子安地蔵尊

元々、大阪城内の蓮和上人袈裟懸の松の脇にあったものですが、明治18年(1885)の淀川大洪水の折に平野川に流され、この地に流れついたのです。当地に流れ着いたのも何かの縁ということで、祭られることになりました。昔から安産地蔵、子安地蔵として多くの参拝者が絶えず、この地でお祭りしてから同様の功德があったと伝わります。

### 4 白山神社

菊理媛神(くくりひめのかみ)を祭神としています。応永頃(1394~1427)から中浜・嶋野・森の諸村の氏神でした。天正4年(1576)、織田信長が石山本願寺を攻撃したさいに社殿を焼失しましたが、慶長8年(1603)、豊臣秀頼により再建。しかし慶長19年(1614)、大坂冬の陣による兵火で再び焼失しました。その後、元和3年(1617)大坂城代・内藤紀伊守により再建されますが、その後も幾度かの改築・修理が加えられて現在に至っています。境内にあるちょうの木は市内で一番大きいもので、幹まわり約5メートル、高さ約23メートルの枝ぶりのよい名木です。大阪府の天然記念物に指定されています。大坂冬の陣では、本多忠朝がこの木で物見したといわれています。

### 5 中浜菁莪塾(しょうがじゅく) 旧跡(正圓寺)

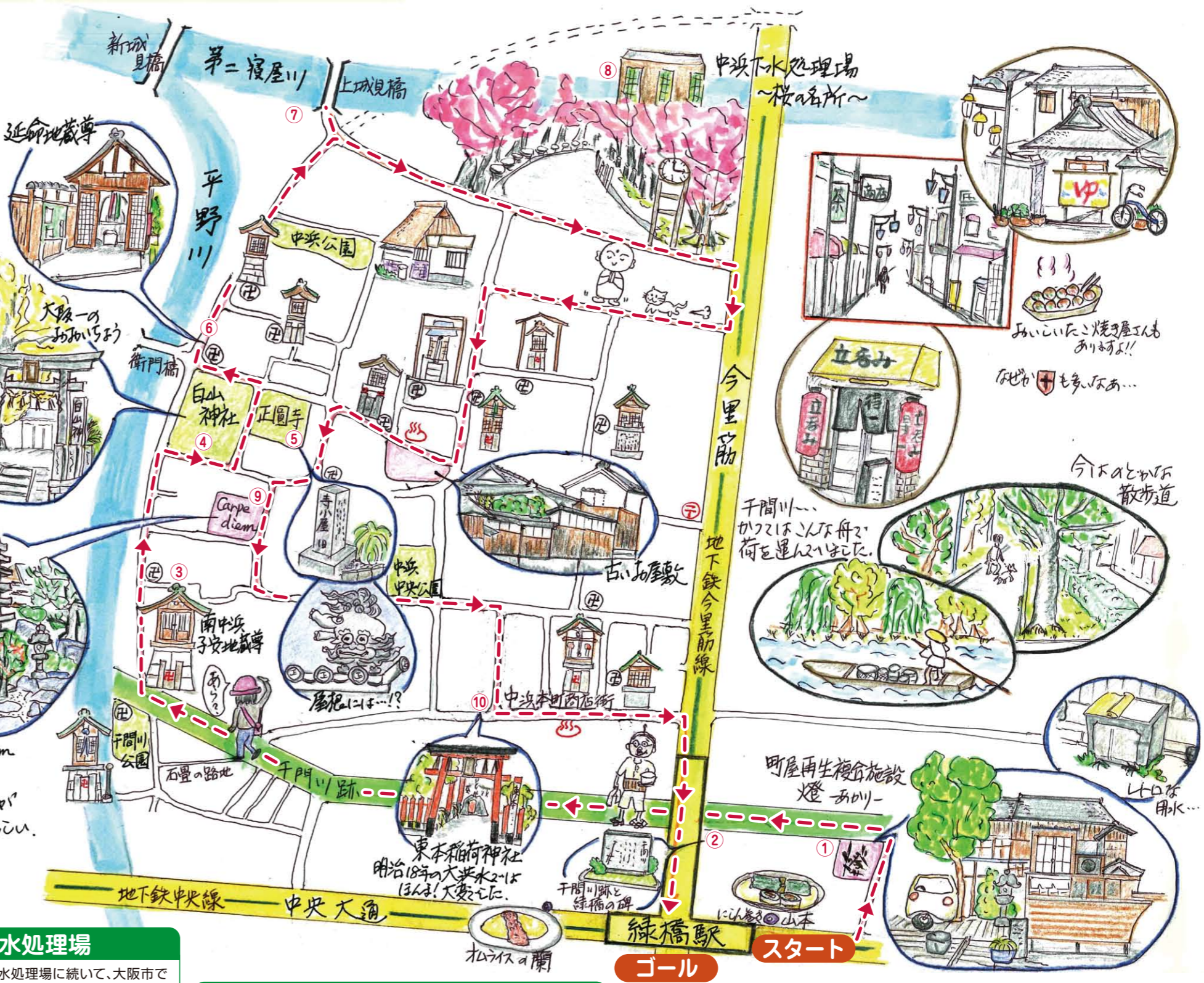
寺子屋・中浜菁莪塾は嘉永元年(1847)、正圓寺の住職が本堂を中浜の子供や、檀信徒の学びの場として開放したことに始まります。明治5年(1872)、中浜校を設置し、明治14年(1881)には民家を借りて學舎としました。しかし明治18年(1885)の淀川大洪によって全村が水没し、中浜の學舎も大破しました。これによって中浜菁莪塾は自然と廃校となりました。

### 6 杉山街道

大阪城の玉造口から京へ向かう街道を杉山街道といい、平野川に架かる衛門橋を渡って中浜村を通っていました。杉山は大坂城内にあった地名で、豊臣時代は“算用場”と呼ばれた杉の名所で、江戸時代には物見遊山の場でした。街道沿いの嶋野駅南方にはかつて杉山橋が架かり、関目には杉山通商店街が現存しています。中浜村は平野川と杉山街道が交差する交通の要衝として栄えました。

### 7 第2寝屋川の開削

寝屋川は交野市星田の山地を水源とします。城東区内では、旧大和川の支流・本流であった楠根川・長瀬川が南から合流して、東西に貫流していました。ところが戦後になると、都市化の進展により、雨水の流出量が増大し、溢水の危険が増すなど、河川が環境の変化に対応できなくなってきました。このため寝屋川水系を二分し、長瀬川など南側の水は、新しく開削する第2寝屋川に集めることにしました。改修工事は昭和29年(1954)に着工され、15年かけて昭和44年(1969)に完成しました。



### 8 中浜下水処理場

津守、海老江下水処理場に続いて、大阪市で3番目の下水処理場として昭和35年(1960)に通水しました。下水の処理方法は、標準活性汚泥法で高級処理し、さらに消毒をして第2寝屋川に放流しています。場内には、「せせらぎの憩いの広場」が完成し、サクラ並木は区内の桜の名所として、花見の頃には多くの人の目を楽しませています。

### 9 Carpediem(カルペディエム)

カルペディエムとはラテン語で、「今を生きよ」という意味です。その言葉通り、「今」を共有する世界の人々と、それぞれの「これまでとこれから」について大いに伝えあい、響きあい、創りあい、今を大切にしようとする場として発足した文化交流の場です。カルペディエムでは絵画、彫刻、写真、諸々のアート企画展を中核に、様々なマルチカルチャーイベントを300坪の日本庭園を有する築60年の家全体で展開しています。

### 10 東本稻荷神社

宇迦之御魂大神(うがのみたまのおおみかみ)を祭神とし、衣食住の神様、商売繁盛の神様として知られています。天正4年(1576)の兵乱で神殿を焼失しましたが、慶長8年(1603)、豊臣秀頼により再建されました。しかし元和元年(1615)の大坂夏の陣で再び焼失。その後、江戸時代に再建されましたが明治18年(1885)の大洪水により流失。興亡を繰り返しました。